

# 修道

No.64

題字は吉田学(高21)書

修道学園同窓会連合会  
 修道学園(中・高)同窓会  
 〒730-0055 広島市中区南千田西町8-1  
 TEL(082)241-8291 FAX(082)249-0870  
 TEL(082)241-6686(同窓会直通)  
 E-mail dosokai@shudo-h.ed.jp  
 URL http://www.shudo-h.ed.jp/dosokai/



同窓大会の様子

## 目次

### 同窓会ニュース

- 2007年度修道学園(中・高)同窓大会報告… 名和原 寛 …1286
- 各同窓会支部会長・中高同窓会正副会長
- 合同情報交換会報告…… 事務局 …1288

### 同期会報告

- 修道高5回同期会の道のり… 上向井快三 …1289
- 佐伯 正司
- 中村 陽一
- 最後の授業2007 高校21回… 足立 哲郎 …1291
- 高校39回同期会(サンキュー会)
- 卒後20周年記念大会を終えて…北村 直幸 …1298

### 特別寄稿

- 修寿会開催報告 ……河野富士雄 …1299
- 土井百毅の碑と山田養吉… 畠 眞實 …1300
- ねんりんピックに出場して… 林 孝治 …1309

### 学園だより

- 第60回修道高等学校卒業式 ……1311

### 人物往来

- 広島商工会議所会頭に就任した大田哲哉さん …1313
- 大田新体制スタート ……1313
- 専門店の集積がにぎわいの決め手“都会”提案し広島の中核性を高める …1313
- 第29回新風舎出版賞フィクション部門最優秀賞受賞 …1314
- 頼山陽記念文化賞に藤高さん ……1314
- 東京広島県人会会長就任 ……1315

### 訃報

- …1315

### 事務局だより

- 浅野家御当主浅野長孝様ご来校 ……1315
- 平成20年度同窓大会開催一覧 ……1316
- 全国制覇を成し遂げました ……1316

同窓会ニュース

# 2007年度修道学園(中・高)同窓大会報告

高校第51回世話人会代表 名和原 寛

2007年度修道学園(中・高)同窓大会は、我々高校第51回卒業生が世話人となり、大会運営を担当いたしました。

私が大学3年生のころ、当然のように大学院に行くものだと思っていました。しかし、大学4年で研究室配属された後、教員に強い憧れを感じ、『どう転がるかは分からないけど、とりあえず受験してみよう』と、大学院と、私学適性検査を受験しました。大学院には合格し、また、非常勤講師のお誘いは市内、市外問わずいただきましたが、『非常勤しかなければ、このまま大学院へ進学しよう』と考えていました。そうしたころに東のほうから「常勤講師で来ないか?」というお誘いをいただいたのが2003年の1月でした。そのままその学校に2年間お世話になり、修道の教員になったのが2005年4月。教員を思い立ってから3年目の春のことでした。

それから月日は流れ、私は修道2年目に高校2年生の担任となっております。修道という組織に属しているながら、全く同窓会など意識したことのない私の電話が鳴ったのは、2006年8月終わりのことでした。「修道50回卒業の〇〇です。10日後に修道の同窓大会っていうのがあって、来年は君たちの番だから、雰囲気を見に来てよ。手伝って欲しいこともあるから、10人くらい集めてね。あと、代表幹事決めといてね。』『・・・?』あまりに突然で、あまりに衝撃的な同窓大会との出会いでした。当時、修道の卒業生で私が電話番号を知っていたのは2人だけ。この2人から伝言ゲームのように広まっていき、何とか当日に10人集めることができました。そして一度も顔を合わせることができぬままに2006年度同窓大会を迎えました。50回卒業生が作成したレジュメには、『51回代表名和原』とすでに書かれており、断れ

るわけもなく、代表になりました。

結果論からいえば、最初から最後までがんばって動いたのは私を含めて5人でした。たったの5人で、しかも教員2名、公務員2名、会社勤め(技術系)1名と、昼間に抜けられる人間はおらず、さまざまなところで前年度との差が見られました。会計の仕事、渉外の仕事など、全ての仕事全員にとって初体験で、至らない点、常識はずれな点が多々あったと反省しきりです。ただ、全員が本来の自分の仕事と、同窓大会の仕事をともに手を抜かず、最後までやりきったのは、我々の誇りとしている部分であります。

例えば、私の7・8月は、高校3年生の補習、水球ではインターハイ中国予選(倉敷・優勝)、国体の予選(広島・優勝)、インターハイ(佐賀・2回戦敗退)、中学のジュニアオリンピック中国予選(江津・準優勝)、同全国大会(岡山・1回戦敗退)と、常に何かしらの物を抱えながら、同窓大会の準備もしました。スーツを着たままクラブの指導をし、そのまま外へ出・・・他の皆も同様に駆けずり回っていました。

しかし、それでもやはり、すべての年代の同期会にも顔を出すことができず、チケットもうまく配ることができず、広告集めもあまりできず・・・。そんな中で、大変失礼なことですが、顔を出しもしないのに広告を出してくださった先輩方、進んでチケットを要求してくださった先輩方の温かさに助けられました。いくら感謝をしても、し足りないくらいです。

当日は皆様がご覧になったとおりです。様々な点で足りないものがあり、いろいろな面でご迷惑をおかけしました。ただ、足りないものがあった

からこそ、同窓生相互の会話が生まれ、新たな出会いが生まれたのではないかなと、勝手にポジティブに考えております。

この同窓大会を通じて、本当に多くの同窓生が同窓大会を作り上げていること、本気になった修道OBは随一の力強さを発揮すること、そして、先輩は後輩を温かい目で見守ってくださっているということを感じることができました。この原稿を書いているちょうど本日（2008年3月6日）より、担任をした高校3年生の国公立大学前期日程の合格発表が始まりました。この生徒たちも8

年半後には同窓大会の幹事となり、同窓大会を開催することでしょう。そして、現役時代には感じることはできなかった、修道の懐の深さ、修道という財産のすばらしさを感じることでしよう。

最後になりましたが、伊藤副会長をはじめ多くの先輩方の激励に感謝を、51回同窓生に感謝を、中学高校時代から支えてくださった恩師に感謝を、そして、修道に通わせてくれた両親に感謝を。全ての人に、『ありがとうございました』。

これからも精進いたします！



同窓会ニュース

# 各同窓会支部会長・中高同窓会正副会長合同情報交換会報告

事務局

2007年9月8日(土)に開催された同窓大会に先立ち、各同窓会支部の会長と中高同窓会正副会長との情報交換会が行われた。

自己紹介の後、いかに同窓会を活性化していくかを論点に活発な意見交換が行われた。

各組織でさまざまな取り組みが行われているが、中でも年々盛り上がりを見せる関東支部の活動報告が野崎敬二幹事長より行われ、縦横の絆を深めるために複数学年が総会世話役を担当すること、学年幹事会を頻繁に開催していること等が各支部の今後の活動の参考になったと思われる。

おわりに、今後も引き続き情報交換の場を定期的に設けることとし、散会となった。

(当日の参加者)

修道学園同窓会関東支部幹事長	野崎 敬二様
修道学園同窓会近畿支部会長	天津 裕様
東部修道会会長	品川 晃二様
修北会会長	藤岡 茂和様
修道医会会長	神辺 眞之様
広島修道歯科医会会長	小松 昭紀様
広島市修道会会長	守田 貞夫様

修道学園(中・高)同窓会	大田 哲哉会長
	高木 一之会長代理
	土井 洋二副会長
	貫名 賢副会長
	松田 弘副会長
	廣谷 清副会長
	中村靖富満副会長



# 修道高5回同期会の道のり

平成19年11月3日

世話人 上向井快三・佐伯 正司・中村 陽一

我々の同期は昭和9年10年生まれ、現在（平成19年）73歳72歳の年齢です。時代の節目を生きた学年で、小学校入学は戦時体制の国民学校1年生第一回入学です。戦後の中学校はこれも新制中学校第一回の入学で修道高校では「白バッチ」第一回の学年です。修道中学入学当時はまだ原爆の悲惨の跡も生々しく敬道館が原爆に耐え残り、新校舎はまだ骨組の復興新築最中の昭和22年の春でした。我々の学年は何時も被爆した崩壊寸前の校舎でしたが、それ以後の新生は新校舎を使ったと思います。卒業は昭和28年3月 高校5回卒業です。戦後復興まもないこの時代に中・高と一貫教育の修道に入学出来た事を感謝しています。当時の月謝は確か450円だったと思いますが、毎月授業中に事務の方がクラスを回り集金に来たことを今でも覚えています。学校もいち早く新校舎建設で当時としては思い切った設備投資であり、その復興の早さは広島一番だったと思います。宗教系の学校とは違い資金の援助も無く、私立修道のその復興の意気込みは藩校の歴史を持つ多くの先輩方々の「修道伝統の魂」だったと思います。原爆当時の犠牲にあった先生方や先輩方の話は良く聞かされ、学年主任の妹尾先生・三上先生・岡島先生と思い出は尽きません。平成7年「神戸・淡路震災」のすぐ翌月の2月、前々より企画していた60歳「同期の還暦祝い」の旅行を土佐の高知で行いました。その時の議題で我々同期も還暦までは何とか健康で来たが、これからの残された人生はあの修道の時代を忘れずに同期会を楽しく継続発展して行こうと、その為には通信費等の資金が必要であり、同期生全員に「生涯通信費」の2,000円の基金をお願い致しました。その結果233名の賛同で256口512,000円の通信費が集まり、今日の発展に繋がっています。「毎年8月12日と

開催日を決めている同期会」と、4年に一度は「気心を知っている」同期で旅行を楽しもうと全員に消息を兼ねて現在でも「旅行案内」と「同期会の案内」を毎年継続しています。終戦より50年、平成7年の1995年にウィンドウズ95が発売され「名簿作成や葉書案内」と急速に便利な時代となりましたがそれまでは手書きの郵送でした。発売後の急速な時代の変化は、ご承知のように今日の変革に波及しています。

- 第1回 平成7年2月還暦高知旅行 参加者26名
- 第2回 平成13年4月「新世紀二十一世紀を迎えての記念旅行」京都城陽市(泊) 平等院・室生寺・薬師寺・伊勢神宮・賢島(泊) 参加者79名
- 第3回 平成15年4月「古希祝い旅行(関東組主催)」東京遊覧・品川プリンスホテル・パーティー宴会宿泊 銀座にて二次会 富士五湖・箱根湯本(泊) 参加者61名
- 第4回 平成18年5月「母校修道訪問記念と山陰旅行」を企画し、大和ミュージアム・懐かしき宮島(泊) 山陰松江城と堀川めぐり・玉造温泉(泊) 出雲大社にてお祓い・横山大観足立美術館・やすき節堪能 参加者43名
- 第5回 来年の平成20年度の企画として4月20・21・22日予定で(関西組主催) 新大阪集合 「有難い修行の高野山宿坊(泊)と熊野三山・那智勝浦温泉ホテル浦島(泊) 白浜」と計画しています。

5回同期会は「毎年8月12日墓参と帰省」を兼ねて広島で開催していますが、約30年前に42歳の「厄年のお祓い」を合同で企画し、懐かしい今は無き「料亭三滝荘」で祭壇を設け三篠神社の神主さんにお祓いをして頂き それ以来毎年継続

して開催しています。今でも思い出すことは高校サッカーで全国優勝し、修道に初の栄冠をもたらした事、夏の高校野球も広島県代表まで勝ち進み、当時は山口県2校と広島県2校とで甲子園の1校の座を争い、惜しくも出場を逃しましたが運動に勉学に頑張った学年だったと思います。先日の同期会で80歳になったら解散しようとしたところ、「馬鹿なことを言うなと叱られました」。今年の同期会は 老後の趣味とボランティア活動でデキシーランド演奏を楽しんで活躍している同期の山根伍(あつむ)君の「ザ キングオブ デキシーランド」の演奏で盛り上がり、ビデオでご覧のように軽快なダンスもしっかりリズムに乗り、健康で楽しくをモットーに「修道高5回同期の会」は

学生時代の青春に帰り、中学・高校を通しての「気どころを知っている」遠慮のない付き合いは楽しく年齢と共に修道の良さを満喫しています。毎年年末の忘年会・旅行は4年に1度の開催でしたが関東組より、2年に1度と提案があり、ホテルもその地域で評判のところを選択して「楽しく」と企画しています。ゴルフ同好会もシングルの石田典之君を中心に年に数回コンペを楽しんでおり、関西組からの参加で盛り上がり時には県外や海外まで足を延ばしています。毎年9月に開催の「修道学園(中高)同窓会」は我々も高齢の70歳を過ぎると足腰も弱り是非椅子を用意して頂ければ有難いと思います。「修道学園同窓会」の益々の発展をお祈りいたします。(中村)



平成18年5月25日 5回同期会旅行 母校訪問



平成18年5月27日 5回同期会 出雲大社にて



平成19年8月13日 5回同期生 山根伍君の演奏



ザ キングオブ デキシーランドの演奏

# 最後の授業2007

21修道会幹事団 足立 哲郎  
(高校第21回、1969年卒業生)

先生、お変わりもなく。

## 1969年卒業生が恩師招く 修道高で授業再現



真剣な表情で街道さん(手前)の授業  
を受ける卒業生

「最後の授業2007」

修道高校(広島市中区)が三日、母校の修道祭に  
を一九六九年に巣立った  
同級生が恩師の授業を再  
び受けよと企画した  
百人が集まった。  
教壇に立ったのは、

語の授業を教えていた安  
佐南区相田七丁目目の街道  
武司さん(79)ら二人。街  
道さんは「正しい日本語  
について」と題し、徒然  
草などを教材に授業を再  
現した。そのころ定年退  
職を控えた卒業生たちに  
「心ある言葉は自分自身  
の感性を研ぎ澄ます。余  
生を染しむため、正しい  
言葉を使ってほしい」と  
呼び掛けた。  
大阪から参加した会社  
役員足立哲郎さん(57)は  
「高校当時と変わらぬい  
先生の授業が懐かし、  
今後の人生の参考にもな  
りました」と感激してい  
た。  
(安部 慶彦)

二〇〇七年十一月四日(日) 中国新聞朝刊

昨年(2007年)秋に修道学園において開催された恒例の文化祭「修道282年祭」に於いて、私たち「21修道会」は異色のイベント参加を行った。高校卒業後38年目にして懐かしい学び舎で恩師をお招きして2科目の「授業」を受けたのである。

時は4年遡る。首都圏在住の同期生の集まりである「東京21修道会」は10年来東京で毎年春秋の2回同窓会を継続してきたが、中学入学40周年を記念して何かやろうということになり、伊豆高原の企業研修施設に修道の恩師 的場克己先生と街道武司先生のお二人をお招きして「授業」をしてもらう企画を立てたのである。皆まだ現役の勤め人が多く、計画立案から実行まで限られた時間で紆余曲折もありながら、2003年5月の週末に何とか開催に漕ぎ付けたところ、首都圏を中心に北海道・北陸・関西・そして地元広島からも、合わせて50人以上の同期生が「最後の授業」と命名したこの授業に出席したのである。

的場先生は、まだ小泉内閣に於いて皇位継承問題が世間を騒がせる前であったが「女帝の譜系」というまことにタイムリーなテーマで現役時代と変わらぬ名調子で日本史の授業をして下さった。街道先生は「サイタサイタサクラガサイタ」と題する、日本語とそれを話す人間の心の持ちように就いて、専門科目の国語の範疇を超えて、すでに紅顔の美少年の面影などどこにも無く黄昏た我等に、恰も往時の悪ガキを諭すように授業をいただいた。

「授業」が終わった「放課後」には、師弟皆で温泉に浸かり、酒食を共にし、夜を徹して語り合うという、白線を巻いた紺の制服時代にタイムスリップしたかのような、夢のような時間を共有することができたのである。しかも、修道時代は授業をサボってばかりいたような「不良」に限って、食入様に「最後の授業」を聴いていたのは、どうしたことであろうか。

これが参加者に好評であった。またやろうと言

う事になった。

あと数年で仕事も現役引退・予備役編入、赤いちゃんちゃんこを着る羽目になるという現実を皆が直視した。現世は醜くとも、過ぎ去った若き日は美しいと皆が思った。企画がだんだんエスカレートして、修道の校舎で先生をお招きしてまた「授業」をやろうということになった。さあ大変。今度は地元広島県の「21修道会」が獅子奮迅の働きをして学校に交渉して文化祭への参加の了解を頂き、合宿所を確保に奔走したり恩師に講義依頼をしたりと本業そっちのけで、企画立案以来約1年をかけて冒頭の文化祭への異色の参加が実現したのである。ところが一つ問題があった。2003年に「最後の授業」は終了してしまっている。題名をどうするかという枝葉末節が意外に我等の世代には気になるのが悪い癖だ。

「続・最後の授業」とか「新・最後の授業」とか「帰ってきた最後の授業」とか議論百出したが、結局「最後の授業2007」であっさり落ち着いた。この辺は結構淡泊である。

さて肝心の授業の方は、1時間目は2003年に続いて登板頂いた国語の街道武司先生に、「正しい日本語について・・・その方向性・・・」と題して、熱血教師時代からの回顧談を交えて、正しい日本語を使うことにより自分自身の感性を研ぎ澄ますことができると、57歳とはいえまだまだ演垂れ小僧の我等のこれからの指針になるような啓示を頂いた。

2時間目は元校長の昌眞實先生の登場。ライフワークとされている修道の歴史研究の集大成ともいべき「藩校・修道・山田十竹先生」と題した「授業」というより「講演」をしていただいた。今年の文化祭のテーマともなっている「282」という数字の持つ意味について1725年に広島浅野藩「講学所」の開設から282年であるということと前後の歴史、戦後の現在に至るまでの歴史も織り交ぜて、修道生なら知っていそうで、実は意外に知られていないことも今更ながら興味深く聴かせて頂いた。

この「最後の授業2007」は現役の生徒たちが主導する文化祭の一イベントであるから、オープン形式で誰でも参加できる方式を採った。本館3

階の大会議室を教室形式に設営し開催したが、想定した来場者をはるかに越え立見も出るほどの盛況であった。我等の同期生もなんと101名が出席した。内訳をご紹介すると、地元広島と中四国に在住の同期生が62名、大阪中心に近畿地区から8名、東京中心に関東地区から28名、北海道から1名、金沢から1名、福岡から1名である。因みに、この授業の様子は翌日（2007年11月4日）の中国新聞朝刊の24面にカラー写真付で報道された。

在校時と大きく変わった学校とその周辺を卒業以来初めて目にする同期生も多く、授業の後も余韻を楽しむように校内を巡る同期生がたくさん居たことは申し上げるまでもなく、夜はその殆どが（広島在住者を含め）大挙して合宿所（世羅別館）に集合し、当時社会科を担当して頂いていた小野田俊作先生も合流されて世羅別館でも久々の「100人を超す大宴会」と相成り、各部屋に分散しても話尽きることなく、広島の夜は更けていくのだった。

明けて日曜日には三々五々同期生が現実に戻って行くのだが、東京組は「最後の修学旅行」と称して仲良くつるんで東京までのセンチメンタルジャーニーをへべれけになって完遂したと聞く。

今回改めて痛感したことがある。同窓会とは、やはり「学び舎」・「生徒」そして「恩師」の三点セットなのだ。それを実現することが出来た我等は実に幸せであった。そして実に「幸運」であった。

このイベントの成功には当事者である我々と恩師の思いはともかく、快く会場の提供とイベントの支援を頂いた修道学園の田原俊典校長、田中佳樹事務長を始め、事務局・同窓会の事務局の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

また、このイベントへの参加を楽しみにされておりながら、惜しくも同年の春に亡くなられた、我々21期生を中1から高3まで持ち上がり、殆どの年度の学年主任をして頂いた故的場克己先生にこの場を借りて哀悼の意を表明させて頂きたい。

また、イベント参加を表明されておりながら、病魔に倒れられ、イベントに参加されないままお亡くなりになった望月寛先生にも謹んで哀悼の意を表したい。

さて次は何時「最後の授業」をやろうか・・・



広島・大阪・東京21修道会合同企画  
合同同期会 2007



一組と先生

栗田 誠・叶谷秀樹・安原充樹・大谷珠彦・佐々木暁・大畠正和・高橋孝二  
川畑哲二  
小川洋司・小野田先生・畠先生・街道先生



二組と先生

関本 恒・木矢克造・田中 誠・椎木秀樹・望月豊博・川本達雄  
小野田先生・畠先生・街道先生

# 広島・大阪・東京21修道会合同企画 合同同期会 2007



三組と先生

藤田保行・友広信夫・川原隆幸・安達孝司・佐々木正廣・松田 肅・山本裕司・小出総太郎  
桐原博孝  
日高義明・小野田先生・畠先生・街道先生・田上広樹



四組と先生

多幾山渉・朝山 修・末広啓吾・浅尾哲三  
多田一洋・北谷秀樹  
小野田先生・畠先生・街道先生・今田泰寛

広島・大阪・東京21修道会合同企画  
合同同期会 2007



五組と先生

芥川正樹・宮部秀文・田頭誠史・山本廣幸・野間啓治・福住義徳  
小野田先生・島先生・街道先生・沖本文雄



六組と先生

山根春樹・児玉哲郎・住下昭俊・上垣孝三・住川雅明・吉岡孝治・野々村健造・北沢庸一・山本秀明  
今田裕相・小野田先生・島先生・街道先生・山本雅史・清水勇二

広島・大阪・東京21修道会合同企画  
合同同期会 2007



七組と先生

多山順一・東 正和・岡部俊幸・久保田雅文・関藤雅二・渡邊 彰  
堂本高義・藤井則行  
原田隆司・小野田先生・畠先生・街道先生・佐久間英司



八組と先生

堀江信司・奥窪 陽・加藤正博・石井英太郎・中村克巳・四反田義和・瀧熊伸治・木本 積・畠山信順  
中野 真・吾郷憲明・高本秀俊・三浦隆司・桑野芳信・二森 寛  
和田 収・小野田先生・畠先生・街道先生・藤居道正・妙見英一郎

広島・大阪・東京21修道会合同企画  
合同同期会 2007



九組と先生

大村英文・武田芳・足立哲郎・藤高克幸・越智孝景・多川信幸・櫛宜谷恭治  
森宗寿博・中吉雄二  
今田正吾・小野田先生・畠 先生・街道先生・二宮誠司

最後の授業2007、並びに同期会

制作部（幹事群）

広島地区担当 二森 寛・田頭誠史・藤居道正・堂本高義・石井英太郎・今田裕相

大阪地区担当 堀江信司・足立哲郎

東京地区担当 住川雅明・藤高克幸・山根春樹・山本雅史・友広信夫・川原隆幸

芥川正樹・磨野 学・東 正和・和田 収・北沢庸一（敬称略・順不同）

協賛・協力 修道学園・亀齢酒造株式会社・堂本食品株式会社・世羅別館

同期会報告

# 高校39回卒同期会(サンキュー会)卒後20周年記念大会を終えて

高校39回卒幹事 北村 直幸



修道高校39回生(サンキュー会)卒業20周年同窓大会  
2007年12月30日 於センチュリー21

高校39回卒同期生は、同期会を「サンキュー会」と称して、毎年お盆と年末に旧交を温めています。このところは幹事の怠慢で広島在住の同期を中心とした案内に留まり30-40名程度の会が続いていましたが、昨年末は卒後20周年を迎えるにあたり、約10年ぶりに全国の同期に広く案内しました。

師走も押し詰まった12月30日、雪の舞う中でホテルセンチュリー21広島に78名の同期が集合し、4名の恩師(田中正久先生:学年主任、畠眞實先生:3年6組担任、小泉健司先生:3年9組担任、吉田学先生:書道)をお招きして、「サンキュー会卒後20周年記念大会」を開催しました。

冒頭、亡くなられた恩師、同期(2名)のご冥福を祈って黙祷を捧げ、続いて小生がサンキュー会世話人の紹介とこれまでの活動報告を行った後、恩師4名にご挨拶をいただきました。傘寿間近の田中先生をはじめとして先生方の年齢を感じさせない懐かしいお声を拝聴して、皆の気持ちが学生に戻ったところで、田中先生の乾杯の音頭にて大宴会に突入しました。

民主党広島一区総支部長の菅川洋君や結婚日前の中野晃義君など我語らんとする面々が随時登壇して宴を盛りあげ、独身者(10名ほどは居たで

しょうか)が強引に引きずり出される場面もあり、終始にぎやかな中、あっという間の2時間を過ごしました。

畠先生に中締めをいただいた後、秋山浩二君のリードで記念撮影を行いました。即席の撮影が、かえって会の盛りあがりを醸し出し、文字通り記念に残る一枚になりました(写真)。撮影後陣形を円陣に組み替え、声高らかに校歌を

斉唱して気分高揚したまま会場を後にしました。

二次会も予約していた2件の店がともに満杯となる約60名が参加し、いつまでも話の尽きない楽しい一夜を過ごしました。

今回、同期会準備と並行してサンキュー会名簿を作成し、記念写真とともに同期・恩師に発送しました。3月8-9日(：サンキュー)には記念旅行も計画しています。栗田英樹君の声がけで約20名が北九州を散策する予定です。

サンキュー会世話人会では、これら記念行事を計画・遂行するにあたり、昨年10月頃から2週間に1回くらいのペースで、4~8人が毎度夜8時頃から食事もとらず、会合を重ねました。大半が雑談となって回数が増えた気もしますが、それはそれで有意義だったように思えます。

39回卒には幸いにも世話好きな輩が揃っているようですので(西村昌浩君、中野賢治君、金島茂則君はほぼ皆勤)、これからも毎年、そして何とか100人以上が集まるサンキュー会を開催できるように、皆で力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

サンキュー会事務局:

〒733-0002 広島市西区楠木町1-4-13  
(株)ポプラ印刷内 西村 昌浩

# 修 寿 会 報 告

河 野 富士雄 (元校長：高校4回)

修道教職員OB・OGの集まり、修寿会は今年も恒例の10月第二土曜日の13日正午から、いつもの場所である県民文化センターで開催されました。集まったのは22名。最高齢は元庶務課長の木原一男さん91歳。嬰鑠(かくしゃく)としておら

れました。小田会長がご勇退ということで、皆さんのご推挙によりわたくしー河野が次期会長ということになりました。新役員は福田内閣と違って全員若返りました。修寿会は外野席から修道を応援しております。



大	原	有	仲	吉	島	相
木	本	田	井	崎		良
木	中	田	佐	山	竹	橋
村	山	中(正久)	藤	木戸	永	谷
	保	川	河	林	平	木
	沢	野	野		田	原
						余
						語

修寿会 (平成19年10月13日 於県民文化センター)

特別寄稿

# 土井百穀の碑と山田養吉

修道学園史研究会 皇 眞實（元校長：高校7回）



旭山神社石段前にある土井百穀の碑



浅野長勳の題字

## はじめに

土井百穀の碑を知ったのは平成17年頃である。中区鶴見橋の西詰めのところに「修路記」という碑があり、その撰文を山田養吉が書いているということ同期の方に教えてもらい、それを何とか読み解き同窓会誌に掲載してもらった。それを読まれた同窓生の方から旭山神社の下にも山田養吉という文字のある碑があると教えてくださった。それが土井百穀の碑であった。しばらくして碑の写真を撮りにいき、撰文の解説を始めたが、すでに手がけていた山田養吉の日記のことがあって、しばらく途絶えていた。そして修道が藩校の流れを汲んでいるということに改めて確認するために「藩校・修道・十竹先生」という題でまとめた。それに携わっている中で、明治4年（1871）の廃藩置県で藩校「修道館」が廃止され、その場所に「遷喬舎」という塾が作られたということを確認した。その「遷喬舎」を興したのが土井善右衛門（百穀）であることを知った。

浅野長勳は「修道館」への強い思いをもっておられたようで、「修道館」廃止後は、私費を投じて、泉邸内に「浅野学校」を作られ、その組織の改革をし、明治14年には校名も「修道校」と改め、山田養吉を校長に抜擢される。そして遷喬舎の流れを受け継ぐ、広島県中学校に対し、浅野長勳が修道校の経営から手を引かれた後を引き継い

で、山田養吉は修道学校を興し、藩校の流れを受け継ぐのである。

土井善右衛門と山田養吉の二人は、藩校「修道館」が廃された後の広島に大きな貢献をしたという点において忘れてはならない存在である。

なお、この土井百穀の碑について調べている中で、2007年秋、たまたま広島県立図書館で井上清氏の著書「碑中の人 『土井百穀を偲ぶ』」に出会い、非売品であるため、入手についてお尋ねしたところ、著者の井上清氏にこの著書を快く寄贈していただいた。今回、この稿をおこすにあたってたいへん参考にさせていただいたことを深く感謝申し上げたい。

なお、井上清氏は、1978年（昭和57）、広島市立段原中学校校長を退職された後、広島市己斐公民館で「己斐の歴史研究会」の主幹として10年間同会で研究に尽くされた方である。

## 碑文

### 土井百穀碑

百穀廣嶋人 姓土井 名積善 称善右衛門 百穀  
其号 世居佐伯郡己斐村 父彦三郎爲里正 性慈  
憫民服之 母越智氏 百穀讀書善字 慷慨趨義方  
慶應明治之際海内多事 百穀或獻財物以佐官舉  
或拋米粟以救士民之窮乏 官屢賞之 国会議之起  
百穀拋數百金差人東京請開国会 大凡国家有急



迅躍赴之淋漓顛倒不厭也 官嘗命督学区尋為里正  
 為戸長又命檢地券 後遂為県會議員 而其功德之  
 存於人者為教學焉 曾買一邸聘英人夫妻創英語學  
 校 邸故芸藩老某所居 規制宏壯更置分校 又私  
 置小學校晚年有慨於政治法律之不振 更置一亭購  
 泰西書使年少子弟講之 廣嶋人而拋私財聘海外學  
 士者以百穀為嚆矢 其誘掖勸勉三十年如一日 家  
 産為蕩盡而不顧也 明治十六年四月十五日没 越  
 明年一月文部省賜金曰賞汝生前勞教育 妻高間氏  
 無子養姪詳爾為嗣 葬己斐山 年五十六 為人  
 高雅善彫刻 禽鳥花卉莫不工妙 曾以其所彫獻二  
 品有栖川親王乃書百穀二字賜之 扁其居 其居臨  
 溪泉涓石蒼老楓四五株覆之 每楓紅騷人韻士訪者  
 相踵 百穀乃置酒留惟醉則論激發既而唾然大笑  
 蓋其襟懷瀟灑不與泉石相負也 門故友朝夕來往於  
 溪山之間 懷其人而不能忘來乞銘  
 銘曰

酬國家終身義舉  
 遇子弟一腔慈心  
 其義斐山峙  
 其慈斐溪深

明治二十五年五月

正二位勲二等侯爵

淺野長勳題字

山田養吉撰

頼 元啓書

贈從五位

大正十三年二月十一日

\* 碑文を読みやすくするため、句間を開けた。

書き下し文

百穀は広島の人なり。姓は土井。名は積善。善右衛門と称す。百穀は其の号なり。佐伯郡己斐村に居す。父彦三郎は里正なり。性は慈憫(じびん)にして、民之に服す。母は越智氏なり。百穀書を読み、字を善(よく)す。慷慨(こうがい)義方に趨(おもむ)く。慶応明治の際、海内(かいだい)多事なり。百穀或いは財物を献じ、以て官挙(かんきょ)を佐(たす)け、或いは米粟(べいぞく)を抛(なげう)ちて、以て士民の窮乏を救う。官屢(しばしば)之を賞す。国会の議起こる

や、百穀数百金を抛ちて人をして東京に差(つか)わして国会の開かれんことを請えり。大凡(おおよそ)国家の急有るや迅躍(じんやく)之に赴き、淋漓(りんり)顛倒(てんとう)するも厭(いと)わざるなり。官嘗(かつ)て命じて学区を督せしめ、尋(つい)で里正と爲し、戸長と爲す。又命じて地券を検せしむ。後遂に県會議員と爲る。而して其の功德の人に存するは教学なり。曾(かつ)て一邸を買い、英人夫妻を聘(へい)し、英語学校を創(はじ)む。邸は故(もと)芸藩老某の居せし所にして、規制宏壯なり。更に分校を置き、又私に小學校を置く。晚年政治・法律の不振を慨する有り。更に一亭を置き、泰西(たいせい)の書を購(あがな)いて、年少子弟をして之を講ぜしむ。広島の人にして私財を抛ち海外の学士を聘するは百穀を以て嚆矢(こうし)と爲す。其の誘掖(ゆうえき)勸勉(かんべん)三十年一日の如く、家産これが爲に蕩尽(とうじん)するも顧みざるなり。明治十六年四月十五日没す。越えて明年一月文部省賜金(しきん)して、曰く、汝が生前教育に勞せしを賞すと。妻は高間氏なり。子無く姪(あとに補注)詳爾を養いて嗣(あとつぎ)と爲す。己斐山に葬る。年五十六なり。人と為(な)り高雅にして彫刻を善し、禽鳥花卉(きんちょうかき)工妙ならざるはなし。曾て其の彫る所を以て二品有栖川親王に献ず。乃ち百穀の二字を書して之に賜う。其の居に扁(へん)す。其の居溪泉に臨み、涓石(けんせき)蒼(あお)く、老楓四五株之を覆う。楓、紅する毎に、騷人韻士、訪れる者相踵(つ)ぐ。百穀乃ち置酒(ちしゆ)し、權(かん)を留め、酔えば則ち論議激発す。既にして唾然大笑す。蓋(けだ)し其の襟懷(きんかい)瀟灑(しょうしゃ)にして、泉石と相負(そむ)かざるなり。門人故友朝夕來往し、溪山の間に其の人を懷(おも)いて忘ること能わず、來たりて銘することを乞う。

銘に曰く

國家に報いて終身義 挙(たか)し  
 子弟に遇いて一腔 慈心たり  
 其の義は斐山と峙(そばだ)ち  
 其の慈は斐溪と深し

明治二十年五月

正二位勲二等侯爵

浅野長勳 題字

山田養吉 撰

頼 元啓 書

贈従五位

大正十三年二月十一日

\*書き下しにあたっては、「碑中の人」の書き下し文とは一部異なっており私なりの読み方をしている。

### 碑文の解釈

百穀は広島の人である。姓は、土井。名は、積善。通称、善右衛門という。百穀というのは、彼の号である。代々、佐伯郡己斐村に居住していた。

父、彦三郎は里正であった。父の性質は、慈愛に富み、憐れみ深かった。村民は彼に心服していた。母は越智氏の出身である。百穀は書物をよく読み、文字についても良く知っていた。意気盛んであり、義にかなったことへ心が向かっていった。

慶応から明治への時代の境目に、国内は多事であつた。百穀はあるときには、財物を献納して、官のなす事を助け、あるときはまた穀物を惜しげもなく投じて、士民の窮乏を救った。役所はしばしばこうした行為を表彰した。

国会を開こうという議論が起こると、百穀は大金を投げ出して東京に人を派遣して、国会が開設されるようにと請願した。おおよそ国家にさし迫った事態が発生すると、飛ぶように早くこの事態に立ち向かい、勢い溢れ、倒れるとも意に介さなかった。役所は、百穀に学区を監督するように命じ、つづいて里正とし、戸長とした。また、地券を検査するようにと命じた。

後についに県会議員となる。そして、その人物に功德があるのは教学においてである。(百穀)はかつて一つの邸を購入して、英国人夫妻を招聘して英語学校を創設した。その邸はもと藝州藩老某人の住んで居たところであり、邸の規模が広く、立派であつた。更に分校を設置した。また私的に小学校を設置した。

晩年、政治・法律の不振を慨嘆し、更に一亭を設置して、西洋の書物を購入し、年若い子弟がこの書物を学ぶようにさせた。広島の人で、私財を

投じて外国の学士を招聘した者は、百穀がその始めての人である。

人が物事をするとき先に立って取り組み、側から助け、勧めて頑張らせるということは、三十年一日の如く変わることなく、そのため家産がすっかり尽き果てるのも顧みることはなかった。

百穀は、明治十六年四月十五日に亡くなった。年があげた翌年一月、文部省は下賜金を贈り、あなたの生前の教育に尽力したことを賞すると告げた。

妻は高間氏である。こどもがいなかったので、姪(正しくは、甥)詳爾を養子にして後継とした。菩提は己斐山に葬った。歳は五十六である。

百穀の人となりは、高潔で、気品があつた。彫刻に巧みであり、鳥や草花を彫って、巧みでないものは無かつた。かつてその彫ったものを二品有栖川親王に献上したことがある。そこで有栖川親王は、「百穀」の二文字を書いて、賜つたのである。この二字を扁額として、彼の住まいに掲げた。

その住まいは、谷間からわき出る泉に臨み、小さな石は年経て青みを帯び、楓の老木、四、五株がこれを覆っている。楓が紅葉するたびごとに、風流を解する人や風雅な人など訪れる者が絶えなかつた。そこで百穀は、酒の用意をし、喜び楽しめるように心配りをなし、集まった人たちは、酔つてくると盛んに論議を交わす。そうなってくると、わあっとばかり大笑するのであつた。

思うに、その胸の内はすっきりと洒脱であり、自然の景色と調和したのである。門人や古い友だちは、朝に夕に行き来して、この庭の細い流れや小高いところに百穀を懐かしみ、忘れることができず、やって来て碑に言葉を刻むことを頼むのである。

銘にいうことに、

国家に報いることは、生涯、公共のため行動を起こし、

子弟に相對しては、全身、慈悲に溢れている。その義の心は、己斐の山のように高くそばだち、その慈悲の心は、己斐の溪のように奥深い。

明治二十五年五月

正二位勲二等侯爵

浅野長勳題字

山田養吉撰  
頼 元啓書

贈従五位

大正十三年二月十一日

【参考事項】

\* 土井善右衛門

1828年(文政11)～1883年(明治16)。私立学校創設者。佐伯郡己斐村(現広島市)出身。庄屋の生まれ、名は積善、百穀と号した。幼少から頼氏の門に学ぶ。のち庄屋、戸長、県会議員などを歴任した。これより先、1872年(明治5)修道館跡に私立遷喬舎(せんきょうしゃ)を設立した。これは広島県で中等教育を施した最初の学校である。最初は英人ジェームズ・ジャイ夫妻を招き、英学の普及に尽力したが、まもなく師範学科、国語科等も置いて校運も隆盛であった。さらに1873年(明治6)には小学師範科を付設した。これも県内における小学校教員養成の最初である。この遷喬舎は官立師範学校や官立外国語学校の創立に伴い閉鎖され、小学師範科は1874年(明治7)東白島に創設された白島学校に移された。この白島学校が広島県師範学校の前身である。青年の教育に従事すること三十年一日のごとくで、家産はこのため衰微したが顧みなかった。1884年(明治17)文部省からその功績を表彰され従五位が贈られた。(「広島県大百科事典」による。)

\* 土井善右衛門と山田養吉との関わり

1870(明治3年)8月、土井善右衛門は己斐村に有止塾をつくり旧藩の儒者、山田養吉を招聘して教師とした。(井上清著「碑中の人 土井百穀を偲ぶ」による。)

\* 遷喬舎

1872年(明治5年)5月、井上善右衛門らにより、旧藩の修道館を継承して広島の南町2丁目(広島市基町)設立された教育機関。「遷喬舎社中規則」によると①教授は語学、意味学の2則を以てす。語学は外国教師来着の上これを創む。②入謝金1分③月謝1両、などの内容であった。同年10月には改めて師範科、横文科、習字科、国語

科がおかれた。招かれた西洋人教師はジェームズ・ジャイで、ほかに岩本元行、青木良蔵、山田貢一郎らが指導に当たり、学制第30条に「当今中学ノ書器未ダ備ラス此際在来ノ書ニヨリテ之ヲ教ルモノ或ハ学業ノ順序ヲ踏マスシテ洋語ヲ教ヘ又ハ医術ヲ教ルモノ通シテ変則中学ト称スヘシ」と規定された変則中学として経営された。生徒数は明らかでないが、首席で卒業した西村益三(のち尾道市長となる)が、「ミッチェル著万国地図」を賞としてうけた記録がある。1874年廃止。(「広島県大百科事典」による。)

\* 百穀が遷喬舎創設にあたって投じた額は5000余円 これは約6億6千万円に相当する。(井上清著「碑中の人より」)

〔遷喬舎の名称〕 喬 たかい。木などがすりと  
して、たかい。 遷 うつる。うつす。

遷喬 故事 うぐいすが谷を出て高い木に  
移る。よい方へ移ることのたとえ。

「詩経」小雅「出自有幽谷、遷喬木」(幽谷より出でて、喬木に遷る。)(漢字源)

・生徒をより高い理想へと導き、育てるという精神を示す名称と思われる。

\* 里正

1. 律令制度で地方行政区画の最下級の単位である里(50戸)の長。現地農民うち有力者を任命し、里内の秩序維持、勸農、警察などを行った。
2. 村落の長。(日本国語大辞典)

\* 慶応明治之際海内多事なり

慶応3年(1876) 徳川慶喜、大政奉還を乞う。

明治元年(1868) 王政復古の号令。明治維新。1月鳥羽・伏見の戦

戊辰戦争始まる。五箇条の誓文。江戸城明け渡し。

明治2年(1869) 薩長土肥の四藩、版籍奉還奏請。東京奠都。戊辰戦争終わる。

明治4年(1871) 廃藩置県。

\* 国会の議起こる

1880(明治13) 国会期成同盟組織。

1881(明治14) 国会開設の詔勅。

**\* 英人夫妻**

英人ジェームズ・ジャイ夫妻のこと。明治5年に発刊された「広島新聞」第5号(「広島県史」近代現代資料編Ⅲ)によれば、「ロンドン医学校ニテ何レニテ医業ヲ開キテモ宜シキノ許可ヲ受ケ許可状ハ常ニ其室に張り居ケルトゾ 医業此ノ如クナレバ学芸モ随テ知ルベシ 行状正シク規則等ヲ寸分モ差ヘヌ人ナリトゾ 同人男子二人女子一人アリ 皆連れ来リシ由」とある。

**\* 戸長**

明治4年(1871)戸籍法の制定より戸籍事務施行の末端機関として設けられた区の長。従来の名主、庄屋がこれにあたった例が多い。後に区が町村行政機関に転化するに伴い、一般行政事務をも扱った。

**\* 地券**

1872年(明治5)以後、地租改正に伴い、政府が土地所有交付した、土地所有権を証明した証券。  
この券記載の地価に基づき地租が賦課された。

**\* 故芸藩老某の居りし所**

広島藩家老浅野甲斐〔(浅野忠英) 文政12年(1829)~明治30年(1897) 広島藩家老、同藩家老職三原浅野家12代。明治元年8月、大坂から英国人ブラックモルを招き、松浜に洋学館を設け、家臣に英学及び銃法を鍛錬させている。これを本藩も採りあげることとなり、本藩招聘とし、洋学所として多くの藩士が同所で学んだ。政治上抗争から隠退のやむなきに至った十一代浅野忠のあとをうけて、よく藩政刷新や軍備充実に努めた。(三百藩家臣人名事典)〕の邸宅。のちに旧陸軍地方幼年学校があったところ。現在の広島市中央図書館あたり。

**\* 文部省は賜金して**

金額は三十五円。明治18年、大工の日当は22

銭7厘 現在で3万円として、約460万円  
(井上清著「碑中の人より」)

**\* 姪詳爾を養いて嗣となす**

碑文に「姪」となっているが、井上清氏の「碑中の人」によれば、「洋爾は百穀の妹の子であり、甥にあたる」と記されている。

**\* 二品有栖川親王**

有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみやたるひとしんのう) 1835(天保6)~1895(明治28) 江戸幕末~明治時代の皇族、政治家、軍人。号は始め「泰山」、後に「霞堂」。有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみやたかひとしんのう)の第一王子。官職は、大宰帥、国事御用係、政府総裁、東征大総督、兵部卿、福岡藩知事、元老院議員(後に議長)、鹿児島県逆徒征討総督、左大臣、陸軍参謀本部長、神宮祭主、陸軍大将。熾仁親王は、17歳の時に孝明天皇の皇妹・和宮親子内親王と婚約し、和宮の歌道指南役を務めたりしたが、公武合体策の一環として和宮が徳川家茂と結婚することになり、婚約は破棄された。親王はこれに加え、家臣であり教育係であった飯田忠彦の影響を色濃く受け、明治新政府の成立に至るまで、朝廷における反会津・親長州派の急先鋒となった。

園芸・陶芸・竹細工の製作を好み、書道・歌道も歴代当主同様名人とされており、父熾仁親王より「有栖川流書道」の奥義相伝を受けている。(Wikipediaによる)

「品」(ほん)は、親王・内親王に与えられた位。(広辞苑) ・一品から四品までである。

**\* 百穀**

「穀」は、こくもつ。百穀のすべてをいう。(字通) 百穀は種々の穀類。

「広漢和辞典」の「播」の用例に「汝稷二后トシテ時(こ)ノ百穀ヲ播ケ」(「書経 舜典」)が示されている。用例の意味は「そなたは、稷の後(きみ)となって穀物の種をまいて農業をおこせ。」というものであり、「百穀」の二字が与えられたのは、土井善右衛門が人材育成などさまざまなところで、尽力したことを百穀の種を播く人として

賞されたものと思われる。

#### \* 其の居に扁す

有栖川親宮に賜った書は、「百穀」と書かれた「扁額」(室内・門戸などに掲げる横に長い額)である。

したがって、「其の居に扁す」とは、部屋に「百穀」の扁額を掲げた、の意。

#### \* 浅野長勲

1842(天保13)～1837(昭和12) 広島藩12代藩主。明治時代初期の大名。号は坤山。1862年(文久2)12月芸州藩浅野長訓の養嗣子となった本家長訓の養嗣子となる。1863年(文久3)將軍徳川家茂から偏諱(へんき)をうけ茂勲(もちこと)と改めた。幕末多難の折、長勲は養父長訓を補佐し、自国防衛のため国元を離れられない長訓に代わり1863年(文久3)3月以降は朝廷、幕府に対する事務を務めた。1867年(慶應3)薩摩、土佐、長州等諸藩と連絡をとり、建白書提出、武力圧両面からの幕府大政返上をめざした。12月の王政復古の政変には積極的に参加し議定に任じられた。以後藩政改革に従事し明治政府にはあまり重く用いられなかった。1869年正月には家督を継ぎ安芸守に任じられた。この月再上京し参与を命じられた。薩長土肥4藩に続いて版籍奉還を顕現したのもこのときである。6月版籍奉還を許可され広島藩知事に任じられ華族となった。1870年2月山内豊熙の女綱子と婚姻を結んだ。翌年2月東京府貫属を命じられ、東京に常住、7月廃藩となり藩知事を免ぜられた。1880年(明治13)12月に元老院議官に任じられ、1882年3月から1884年5月までイタリア公使を務めた。1884年7月侯爵を授けられた。議会開設に備え1889年2月広島に友友会を組織し、6月には新聞『安芸津新報』を発行したがあまり実績も上らず翌年解散した。長勲は産業開発の面でも重要な事業を行っている。1872年9月東京につくった洋紙製造工場はその代表といえる。これは後に王子製紙となる。また広島県開発、士族授産にも意を注ぎ、千田貞暁県令の企図した宇品築港事業を積極的に支援した。長勲は資金の一部を供出し、

旧藩士族の団体である授産所・同進社は直接事業に参加した。1896年(明治29)1月には従一位に叙され、最後まで生き残った大名経験者として有名であった。(広島県大百科事典)

#### \* 山田養吉

1833(天保4)～1901(明治34) 広島藩士。儒学者。教育者。九代藩主浅野斉肃、十代慶熾、十一代長訓、十二代長勲に仕える。父は、幕末に歩行目付の職にあった山田三太。名は浩、字は養吉、十竹と号す。号は自家の小さな庭の隅に植えられた竹に因んだものという。幼少期に坂井虎山に漢学、金子霜山に漢学・兵学を学び、十六歳で学問所の句読師に拔擢された。文久三年正月十一代藩主浅野長訓が京都において、中央政局へ参加し始めると、執政辻将書(維岳)に従って、同志船越洋之助(衛)らと上京。諸藩士と交わって尊王攘夷を説いた。のち藩政改革のため用達所詰となり、帰国して藩の機務に参画した。しかし人材養成の急務を感じ、願い出て学職に復帰し、学問所付となった。慶応二年第二次長州出兵際には、大いに奔走。戦闘が終わると洋学研究の必要性を感じ、学生五十人を引率して江戸に出て、洋学を学ばせた。かたわら自らも若山勿堂・古賀謹堂らに従学した。明治元年、学問所の教授となり、小姓組列し禄二十石を賜った。翌二年、広島藩が賀茂郡志和西村創建した文武塾の漢学教授となったが、翌年廃止。次いで、修道館(明治三年に学問所を改称)の寄宿寮塾の塾頭となったが、同年廃止。同七年海軍兵学寮教官となり、漢学の教授にあたった。同十四年、浅野学校の校長に迎えられて改革を行い、修道校と名付け、その経営に努力した。同十九年、旧藩主浅野家が修道校の経営を廃するに際し、その施設を譲り受け、八丁堀の自邸に移して授業を続行した。しかし官立学校の拡充に伴い次第に経営は困難になっていった。その再建途上の同年八月二十六日死去。享年六十九歳。比治山共同墓地(比治山公園)に葬る。著書に「日本志略」「明治小学」「尺木集」「十竹軒遺稿」「暗誦事類」等がある。(「三百藩家臣人名辞典」)

#### \* 頼元啓

1829(文政12)～1894(明治27) 広島藩儒。

名は元啓。字は子明、通称は東三郎。号は誠軒。父は広島藩儒頼事庵で、山陽の孫、春水の曾孫にあたる。安政3年父の没後その後を継ぎ、知行百三十石、ほかに書物料五両を給され、儒医組外様に置かれた。学問所教授として家学の朱子学を講じたほか、詩文・書をよくした。明治二年版籍奉還後の制度改正により永世禄二十五石、中士に置かれ、学校系の教授となった。晩年には広島において家塾を開き家学を中心に訓育した。明治27年5月30日没。享年66歳。比治山安養院に葬る。その跡は長子元緒（通称弥次郎、古棟と号した。）が相続。その後は成一（名は元孚、煤屋と号した）一推勤と続いている。[尚古]（「三百藩家臣人名辞典」）

なお、「芸藩志拾遺」十八巻に「（浅野長勲が）時勢の変遷に応じて学制を改革し、普通学を教授せしめんと欲し、特に山田養吉を抜擢し新たに该校教授と為し校務一切を委任せられる。（中略）生徒教育の方として専ら漢学を講読する事と為し、

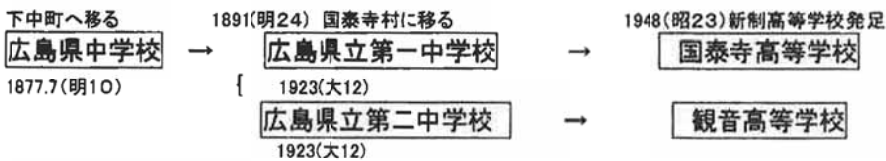
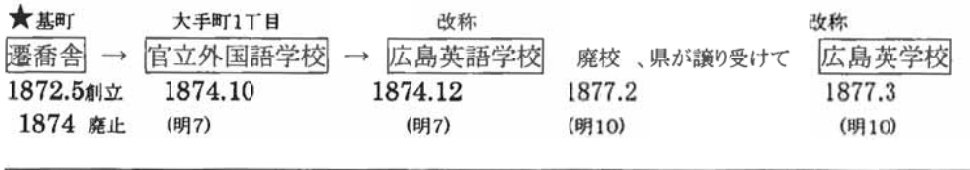
而して洋算・習字・撃剣・遊泳の四科を付属として教育せしむ、於是修道校と改称す、十月四日養吉ハ東京より着校す、山田修平 立野寛等と学校の設備を為す、同月廿四日開校の旨を県庁に申告し、十一月十五日更に入学試験を為す、生徒四十四人之を三分して三教場則ち読書・算術・作文の試験を為せり、同廿五日開校す、是より日々教育に従事せり、開校当時の教員ハ左の如くなりしか

後に増減する所ありし 算術 友村久次郎  
習字 頼元啓 撃剣 岡部篤之助 漢学  
最上熊之助 塾頭 永田音三郎」とある。

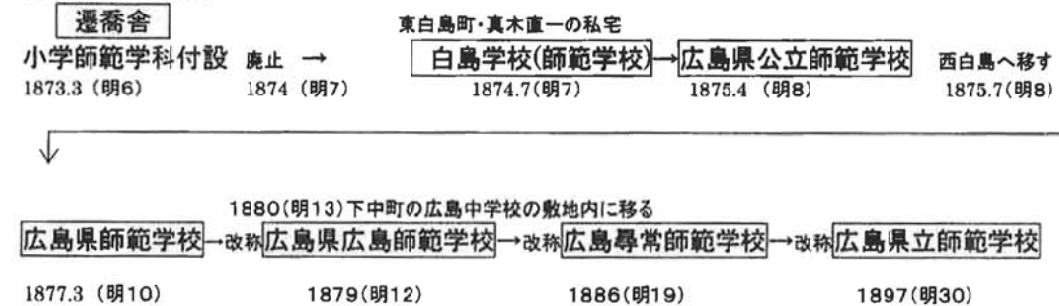
この資料により、頼元啓と山田養吉との関係が分る。さらに山田養吉の撰文を頼元啓が書したことも頷ける。

また「晩年には広島において家塾を開き」とあるのは、「新修広島市史」によれば、「必正舎」のことである。創立は明治20年で、廃止されたのは明治26年となっている。明治22年度における生徒数は男子27名、女子3名と記されている。

修道館 以後



★師範学校の流れ



→1901(明治34) 皆実町へ移る → 1941(昭16)東雲に移る → **広島大学教育学部東雲**

**広島大学設置** 1949(昭24)

● **千田町** 1952(昭27). 3  
**広島高等師範学校** 廃校 → **広島大学教育学部**  
 1902(明35)

★上流川 泉邸内 改称 八丁堀(山田養吉自邸)  
**私立浅野学校**(温知館と呼ぶ) → **修道校** 浅野家手を引く → **修道学校**  
 1878.6(明11) 1881(明14) 1886(明19) 1886(明19)

**私立修道中学校** 1905(明38) → **1947(昭22) 新制中学校発足**  
**修道中学校・修道高等学校**  
 1948(昭23)新制高等学校発足

\* 修道館のあとをついで (上記の図を参照)

遷喬舎にとって代わったともいえる**官立外国語学校**(校長吉村寅太郎)は大手町一丁目に設けられ、イギリス人ハックなどを招いて(明治七年)十月から授業を行った。同七年十二月**広島英語学校**と改称した。しかし同十年二月西南戦争による財政難のため廃校することになり、広島県がこれを譲り受けて**広島英学校**と改称(校長吉村寅太郎)、同年三月から授業を始めた。これが同年七月下中町に移り、同年十一月広島県中学校と称せられることとなった。かくて明治十二年七月第一回卒業生(六名)を出した。これがのちの**広島県立第一中学校**(大正十二年〔1923〕広島第二中学校の設立によって改称)の前身で、国泰寺町に移ったのは、同二十四年三月であった。この広島中学校の創立の翌年明治十一年六月旧藩主浅野長勲が私財を投じて**私立浅野学校**(温知館と呼んだ)を上流川町泉邸内に建設した。

のち明治十四年(1881)そのころ海軍兵学校の教授であった山田養吉(十竹)を校長に迎えて改革を行い、**修道校**と名づけ生徒もつねに120から130名あつた。しかし同十九年四月浅野家は広島県立の中学校の振興を図る目的から、その経営をやめ、金品・建物などを県に寄付することを

申しいで、修道校は廃止されることとなった。このとき校長山田十竹は一切の施設を譲り受けて八丁堀の自邸内に移し、九月から授業を続行し、これを**修道学校**と称した。同三十八年四月認可された私立修道中学校の前身というべきものである。  
 (「新修廣嶋市史」第四巻・文化風俗編)

\* 私立中学校の各種学校化

明治12年9月、「学制」を廃して「教育令」が公布された。翌年12月、田中不二麻呂に代わって河野敏謙が文部卿に就任した。この河野文部卿のもとで「中学の正格化」が推し進められ、広島県も変則中学校に対する規制を強化した。従来、読書・算術などいくつか学科を備える学校を変則の中学としてきたが、これ以後は読書・算術・地理・歴史・修身の六科を備えるもののみ中学校と称することを布達した。その結果、広島地区に三〇数校あつた私立の変則中学は、明治十三年度中に浅野学校以外はすべて各種学校になった。さらによく十四年には浅野学校も各種学校になった。これらの各種学校のうち、明治十六年には二七校が廃止されている。その理由は「従来学校ノ体裁ヲ備ヘザルモノアリシガ、曩ニ学校等設置廃止規則を創定セシ以来、之ガ調査を厳ニセシヨリ、或

ハ教師ヲ改選スルコト能ハズ、或ハ規模ヲ整頓スルコト能ハズ。遂ニ斯ノ如ク減少ヲ見ルニ至レリ（文部省第十一年報）というものであった。

明治十四年九月「中学の正格化」に対して、浅野長勲は普通学を教授するため、山田養吉を教授に抜擢し、校務一切を山田に委任した。そして同年十一月温知館を修道学校と改称した。そのとき、山田に与えられた訓令には、「一、道徳ヲ修ルヲ以テ本校ノ主義トスベキ事。一、生徒ノ品行ヲ正スベキ事」という事項が掲げられている。その目的のために、生徒の教育は漢学講究が中心となり、付属科目として洋算・習字・撃剣・游泳の四科を設けた。文部省が西洋知識の教育を目指す中で、修道学校は漢学にもとづいた道徳教育を基本方針に置くことになったのである。政府の中等教育政策に背を向けて独自の道を歩むことは、修道学校が中学校ではなく、各種学校になる道を選択することを意味していた。

（中略）

#### 私立中学校の設立

明治二十年代から三十年代にかけて、諸法制の整備が進み県立や私立の中等学校が相次いで設立されていたが、人々の中等教育に対する要求を十分に満たすことはできなかった。こうした状況の下で、独自の教育理念を掲げる私立中学校が、広島地区の中等教育に重要な役割を果たした。男子の修道学校・明道学校・広陵中学・広島実業中学・広島仏教中学、女子のための広島英和女学校・広島高等女学校などである。

修道学校は創立以来浅野長勲の援助を受けて経営されてきたが、明治十九年（1886）三月浅野長勲より同校の経営を停止することをされ、同校は廃止された。これに対して修道学校の校長山田養吉は浅野家から学校の器物や書籍を譲り受け、八丁堀の自宅に修道学校を再興することを図った。山田は明治二十年三月、広島県に漢学私学開設の伺いを提出し、十六日に千田知事より修道学校の設置が認められた。（「学第九六〇号」「修道学園史」）同校は「漢籍ヲ授ケ道徳ヲ修ムルヲ以テ主旨」とし、修身・歴史・作文・数学・習字・体操の六科を教授する学校として再出発した。

（「修道学園史」）

明治三十年代に入ると官公立の諸学校に押されて修道学校は衰退した。これを打開するために明治三十三年（1900）十二月十四日より昼間は普通学の教授を廃止して山田校主による漢学教授のみを行い、夜間中学程度の普通学科を教授する修道夜学校を設置した。明治三十四年八月山田校主の死去に伴い昼間の漢学教は廃止となり、修道夜学校のみとなった。明治三十八年三月、水山烈を設立者として中学校設立を文部大臣に申請し、四月二十八日に認可された。私立修道中学校が誕生したのである。明治三十九年、同校は竹屋村（現南竹屋町）に校地を定め、翌年一月十日に校舎が竣工した。（「修道学園史」）（「広島市学校教育史」）

※「修道学校」は「修道校」が正しいと思われるが原文のままにしておいた。

#### 終わりに

「碑中の人」を著された井上清氏は、「土井百穀先生との出会いは、己斐旭山神社の百穀碑であった」と記されている。この石碑の存在に多くの方は気づかれるであろう。しかし、近づいてその碑文を読む人は希であろう。時に、碑文を読もうとして見られるにしても、漢字ばかりが連ねられているので、そこで立ち去る人が大方ではあるまいか。そんな碑に心を留め、記されている内容を時間をかけて読みとり、その人物を掘り起こすことは後世の人にとって大切なことであろう。広島に現在存在する学校がどのような経緯を経て現在に至ったのか、そのことに心を寄せるきっかけが、この土井百穀の碑にはある。「碑中の人」も、この碑文を記した人も、碑文の文字を書いた人も、題字を書いた人も、もはや遠い人である。しかし、そうした先人の功績によって現在の私たちが多くの恩恵を受けていることを改めて思い知ることは、私たちが力づけてくれる。

そうした先人の遺徳を偲ぶことも時にはあっていいと思う。「温故知新」という言葉があるが、十竹山田養吉先生が遺された碑文を尋ねて先人を偲ぶことの意味を改めて知らされた。





# ねんりんピックに出場して (サッカーの生涯現役として)

林 孝 治 (高校2回)

第20回全国福祉祭いばらき大会(ねんりんピック茨城2007)は平成19年11月10日(土)より13日(火)まで茨城県内の各会場に分かれて、各種目が開催されました。

「さわやかな長寿の風を茨城に」をテーマに総合開会式は笠松運動公園に、常陸宮殿下・同妃殿下をお迎えして、盛大に行われました。生憎の雨で、入場行進は中止されました。その後サッカーは、ひたちなか市文化会館にて、開始式が行われ、翌日より、笠松運動公園・ひたちなか市総合運動公園・石川運動ひろばに分散して、全国から52チームが出場し、各4チームがAからMの14ブロックに分かれて試合が開始されました。

修道からは1964年東京五輪、銅メダル獲得、1968年メキシコ五輪の日本代表の中心メンバーで活躍し、日本サッカー協会「殿堂入り」をはたした、森孝慈(高14回卒)選手が高場利博(高校9回卒)とともに、東京都シニア(0-60)青山(せいざん)の選手として出場したほか、広島県

の代表選手として、脇洋一・大内晟、広島市の代表選手として、林孝治・高瀬正明・藪正悟の7名が参加しました。

東京青山と広島県は「銀」、広島市は「金」メダルと決定しました。

本年の平成20年の21回大会はNHK大河ドラマ「篤姫」放映中の鹿児島県で、平成21年の22回大会は北海道にて行われます。

本大会は60才以上の人々に参加資格があります。各都道府県と政令都市で、選抜の方法は異なっております。

全国で活躍する修道サッカーOBが、各地区より多くの卒業生が出場することを期待しております。

高齢者社会を迎え、サッカーもシニア(70才以上)のチームを編成して、全国大会を開催する計画をすすめております。

サッカーに年齢はありません。多くの修道卒業生の出場を期待しております。

戦績は次の通りです。

## Jブロック

チーム名	1 茨城県ひばり	2 和歌山県	3 広島市	4 大分県	勝 点	得失点	順 位
1 茨城県ひばり		3-1	0-4	0-1	3	-3	3
2 和歌山県	1-3		0-5	1-4	0	-10	4
3 広島市	4-0	5-0		3-0	9	+12	1
4 大分県	1-0	4-1	0-3		6	+1	2

## Cブロック

チーム名	1 青森県	2 東京都青山	3 石川県	4 大阪市	勝 点	得失点	順 位
1 青森県		1-1	4-0	0-3	4	+1	3
2 東京都青山	1-1		4-1	0-1	4	+2	2
3 石川県	0-4	1-4		0-2	0	-9	4
4 大阪市	3-0	1-0	2-0		9	+6	1

## Lブロック

チーム名	1 群馬県	2 静岡市	3 大阪府	4 広島県	勝 点	得失点	順 位
1 群馬県		0-2	3-0	1-5	3	-3	3
2 静岡市	2-0		3-0	3-2	9	+6	1
3 大阪府	0-3	0-3		2-1	3	-5	4
4 広島県	5-1	2-3	1-2		3	+2	2



藪 正悟(高17回)



左から、林 孝治(高2回)・森 孝慈(高14回)  
高場利博(高9回)・高瀬正明(高9回)



左から、脇 洋一(高15回)・大内 晟(高11回)

## 第60回修道高等学校卒業式

第60回修道高等学校卒業式が2008年3月1日(土)午前10時から大講堂で挙行され、289名の卒業生が巣立った。

式は山田薫学年主任が卒業生一人一人の名前を読み上げ、田原俊典校長から卒業生代表相野田淳三君に卒業証書が手渡された。

学校長式辞の後、林正夫理事長、岩井肇PTA会長、大田哲哉同窓会会長から祝辞が述べられた。

在校生代表中島直矢君の送辞、卒業生代表成田恒輝君の答辞に続いて脇野喜平君から卒業記念品(ソーラー照明灯)が学校長に贈呈された。

私学連合会長賞には仁保隆嘉君が選ばれ、続けて校長賞も受賞した。校長賞にはこの他に田村静彬君と藤谷哲平君も受賞した。

続いて教頭から皆勤賞受賞者の発表があった。

皆勤賞の受賞者は以下の通りである。

(皆勤賞 6ヶ年)

相野田淳三、小林佑輔、中井健宏、吉野真弘

(皆勤賞 3ヶ年)

栗原 拓、松浦耕介、和泉圭祐、林 泰之  
溝口佳紀、櫻井 信、佐藤雄太、末貞昌英  
瀬分盛央、田頭英朗、戸手博之、中川純希  
仁保隆嘉、平原 慧、保崎憲人、茅田 顕  
下須賀健一、正岡 駿、吉金伸洋、太田修平  
楠 悠希、佐川達郎、三浦優良、金井純一  
木谷健太郎、木本 潤

### 同窓会長祝辞

修道高等学校第60回卒業証書授与式にあたり、修道学園中・高同窓会を代表いたしまして、ひとことお祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さんご卒業おめでとうございます。

本日でたく卒業された皆さんを、我が同窓会にお迎えできましたことは、同窓生一同心からの喜びであります。

この度の栄えある卒業は、皆さんの日々たゆまぬ努力の結晶であることはもとより、これまで慈しみ、育てこられた保護者の皆様や校長先生をはじめ多くの教職員の方々の献身的なご指導によるものであることも忘れていただきたいと思えます。

ご存知のように同窓会は、同じ学園生活を送った人々が世代を超えて縦横に結びつき、会員相互の親睦と母校の発展を目的として日々活動を続けております。

幾多の同窓生は政治、経済、文化、法曹、教育、医療等のあらゆる分野で活躍をされ、わが国はもとより広く国際社会において貢献をしておられます。これらの同窓生が相集うために同窓会が組織されており、その歴史は実に96年に及びます。今後皆さんは全国各地に進学し、各界で活躍されることになるとと思いますが、どうか地元広島はもとより他の地域や職域の同窓生と、積極的な交流を図ってください。

偉大な学者であった孟子は次のように言っています。

「人を愛するものは、人恒に之を愛し、人を敬するものは、人恒に之を敬する。」

すなわち「人を愛する人に対しては、他の人もまたその人を愛する。人を敬う人に対しては、他の人もまたその人を敬う。」と言った意味であります。

これから出会う数多くの同窓生はもとより、人との交流には、この言葉が教えるように、人を愛し、人を敬う、まさに忠恕の精神で接していくことが肝要であると思えます。やがて相互に結ばれた強い絆は、必ずや将来の皆さんの大きな支えになるものと確信をいたしております。

さて、皆さんはさらなる目標に向かって日々研鑽を積まれることとなりますが、これからは自ら判断し、行動しさらには責任を取ることを厳しく求められることとなります。

それは、時に大きな課題となって皆さんの前に立ちはだかるかもしれません。

かかる時にこそ、この修道で培われた“修道魂”を遺憾なく発揮され、様々な困難を力強く乗り越えていただきたいと念じております。

おわりに、皆さんの未来が前途洋々であることを心からお祈りいたしますとともに、次代に寄与する有為な人材となられますことを切望して、私のお祝いの言葉といたします。

本日のご卒業、まことにおめでとうございます。  
2008年3月1日

修道学園中・高同窓会  
会長 大田 哲哉



## 人物往来

### 広島商工会議所会頭に就任した大田哲哉さん

大田 哲哉氏（高11回・広島電鉄株式会社社長）

広島電鉄（広島市中区）の社長を11年半余り務めており、地元経済界での顔は広い。周囲からの人物評は一言で言えば「豪放磊落」。中国地方の商工会議所のトップにも立つ広島商工会議所の新会頭に一日、就任した。

自身の性格を「たつ年生まれて血液型はB型。それで大体、想像してもらえる。考える前に走って後を振り返る」と表現する。会頭就任の抱負も「理屈をいろいろと考えるよりも、活発に動ける商工会議所にしたい」と語った。

経済団体の活動では、広島経済同友会の代表幹事を2001年4月から4年間務めた。筆頭の代表幹事だった04年には、観光客誘致やアニメ産業の集積を狙い、被爆地からアニメ文化を発信する「広島アニメーションビエンナーレ」を初めて開催した。地元企業に協力を求め、イベントを開くための基金も設立した。

新会頭としても観光振興に力を入れる考えだ。「すそ野が広い観光産業の振興のため、関係する団体の連携をより親密にするように働きかけ、新たな魅力を創出したい」と強調する。

広電では、宅地の販売など不動産部門の経験が長い。現在、広島市の「へそ」である紙屋町交差点に接するグループ所有のオフィスビル3棟を一体的に再開発する計画を進める。社長就任後、本業の電車事業では、超低床車両の導入など次世代型路面電車システム（LRT）の推進に取り組んでいる。

周囲からは、勘が鋭くゴルフやマージャンなどの勝負事には強いとの評判も、出身地でもある佐伯区在住。  
（中国07.11.02）

### 大田新体制スタート

伊藤 學人氏（高校20回・イトー社長）

河野 高信氏（高校23回・己斐商事社長）

広島商工会議所は13日の臨時議員総会で副会

頭5人を決め、広島電鉄（中区）社長の大田哲哉会頭（66）をトップとする新体制がスタートした。地元経済界で「御三家」といわれるマツダ、中国電力、広島銀行のグループから3人が役員となる体制を維持。大田会頭が重点課題とした中小企業の活性化と観光振興に力を入れる。

副会頭の5人のうち、新任は広島銀の関連会社、ひろぎんリース（中区）の織田珖治社長（64）、砂糖などの卸売りのイトー（西区）の伊藤學人社長（58）、不動産仲介などの己斐商事（同）の河野高信社長（55）の3人。織田氏が金融や産業政策、伊藤氏が重点課題の中小企業の活性化、河野氏が観光振興を担当する。

織田氏は広島銀専務から昨年6月にひろぎんリース社長に就任。伊藤氏は2005年5月から西区商工センターの広島総合卸センターの副理事長、河野氏は02年5月から広島経済同友会で観光振興を担当する「1500万人委員会」の委員長を務めている。

中国電力の福田昌則副社長（62）と、マツダの協力メーカーで自動車部品製造の広島アルミニウム工業（西区）の田島文治社長（58）は再任。2人とも宇田誠前会頭（73）の任期中だった昨年7月、副会頭に就任した。福田氏は新球場建設を含めた都市機能の強化、田島氏は工業振興などを担当する。

大田会頭は総会後の記者会見で「新球場建設は、ほぼめどが付いたが、再開発など課題がある都市基盤を強気に進めるため、地域に影響力が大きい三社のグループから引き続き副会頭をお願いした」と説明。「中小企業の活性化と観光振興に当たってもらう適任の2人を加え、バランスが取れた体制になった」と強調した。（中国 07.11.14）

### 専門店の集積がにぎわいの決め手「都会」提案し広島の中核性を高める

大下 龍介氏（高校7回・福屋社長）

市内中心部の百貨店では、郊外への大型商業施設の進出で、業態の垣根を越えた競争が厳しさを増している。福屋はここ3年間で、八丁堀本店の全館リニューアルを完了。1階にティファニーも導入して高級ブランドを拡充したほか、食料品の

“デバ地下”や衣料はもちろんのこと、家庭用品を改めて強化し、ライフスタイルの提案に拍車を掛ける構えだ。

「中四国で広島の中枢性を高める役割の一端を担うべく、他店にはない差別化できるものを追求していきたい。商品を通じ、こじやれて、気の利いたライフスタイルを提案していくことに使命感を感じています」

価格政策も念頭に置き、手の届かない高級品ではなく、“ちょっとおしゃれ”な都会のセンスが光る品ぞろえを推進。「百貨店は市民産業」と明快だ。一方で、街のにぎわいづくりについて、「集積を高めること、本通りや金座街にはにぎわいを感じます。なぜか。専門店が集まっているからです。アディダスの店舗をはじめ眼鏡や携帯電話、コーヒーショップなど各業種で複数の店舗がしのぎを削っています。単体店では、これから難しい。専門店がより機能を発揮するには、100坪程度の単位で集積するのが望ましい。集積がどんどん増えれば街は、より生き生きとしてきますよ」

今秋には本店に隣接し、ファッションビルをオープンする。中央通り、えびす通り、金座街の交差する八丁堀に新たなにぎわいが生まれそうだ。

(2008.01.03 広島経済レポート)

## 第29回新風舎出版賞 フィクション部門 最優秀賞受賞

今子 正義氏 (高7回)

調布市在住の作家、今子正義さんの小説「不払い保険会社に挑む!モラルリスク常習者たち」が、自費出版大手による出版賞の最優秀賞に選ばれた。25年間勤めた保険調査会社で目の当たりにした保険金詐欺事件をもとに、裏社会をリアルに書き上げた力作。今子さんは「調査体制が十分でない中、保険探偵が現代の忍者のように奮闘していることを知ってもらえれば」と話している。

今子さんは早稲田大第一文学部卒業後、1960年に映画会社「大映」に入社した。調布市の大映東京撮影所(現・角川大映スタジオ)で助監督として働きをしていた後、映画やテレビドラマの脚本を手掛けた。

ところが、71年に大映が倒産。保険調査員を

描いたテレビドラマの脚本を書くための取材で知り合った保険調査会社の幹部に誘われて、新しい保険調査会社の設立メンバーに加わり、保険金詐欺調査の指揮をとった。10年ほど前に退職し、その後は、主に保険金詐欺をテーマとした小説を書いている。

受賞作は、巧妙に仕組まれた保険金詐欺を一匹オオカミの調査員が暴いていく短編4編で構成されている。第1話には、交通事故で左目を失明した映画監督が登場。主人公の調査で、監督は映画製作費の工面の窮しており、指4本を切断して保険金を受け取ったという過去も浮かび上がってくる。第2話は、詐欺常習犯の運転手と、それを暴こうとする主人公との攻防が描かれる。いずれも、実際にあった詐欺を脚色したものという。

受賞したのは、新風舎出版賞のフィクション部門最優秀賞。フィクションやノンフィクションなど4部門に計4935点の応募があり、9月中旬に大賞1点と各部門の最優秀賞などが選ばれた。今子さんは「まさか受賞できるとは思わなかった。今後の執筆の励みにしたい」と話している。受賞作は来年、出版される予定だ。(読責07.10.27)

## 頼山陽記念文化賞に藤高さん

藤高 一男氏 (高10回)

頼山陽記念文化財団(広島市中区)が山陽研究の功労者に贈る第二十五回頼山陽記念文化賞は、同市西区井口の藤高一男さん(68)に決まり、表彰式があった。山陽の代表作幕末にベストセラーとなった歴史書「日本外史」を現代語訳して出版した功績が評価された。

約十年前から頼山陽史跡資料館(中区)の研究会に参加し、現代語訳に取り組んできた藤高さんは、「多くの人に本の魅力を知ってほしい」と2001年から「日本外史を読む」を自費出版。平氏から徳川氏までの武家の歴史を記した二十二巻の原書を五巻に分けて刊行し、昨年2月に完結した。

「日本外史が尊皇思想を鼓吹し倒幕運動に結実したとされて山陽は誤解されてきたが、実は平和主義者。海外に兵を送った豊臣秀吉を痛烈に批判している」と藤高さん。「(幕藩体制の中で)冷静

に勇気ある指摘をした郷土の偉人の再評価に、現代語訳が役立てばうれしい」と話す。「今後も研究を重ね、改訂版では一層詳しい注釈を加えたい」とさらに意欲を示していた。(中国07.11.23)

## 東京広島県人会会長就任

林 有厚氏(高校1回・東京ドーム社長)

「総会に千二百人が集まるなんて、日本一、活気のある県人会だと思う。重責に身が引き締まる」。東京広島県人会を14年率いた岡田茂前会長(東映名誉会長)を引き継ぎ、先月の役員会で新会長に選ばれた。

「岡田さんは、以前は経済界のトップの集いという感じだった県人会を、誰でも遠慮なく参加できる雰囲気にした。大変な才能」。就任にはためらいもあったが、「岡田さんから『おれの指名だから、いいんだ』と言われるとね」と苦笑する。

プロ野球巨人の本拠地、東京ドームの社長。カープファンがひしめく県人会で微妙な立場にも映るが、「私が愛しているのは野球界。強いカープの復活で活気を」と願う。

JR広島駅東側に来春完成する新球場にも思いを寄せ、母校・修道学園の同窓会で建設費の「たる募金」に協力と呼び掛けたことも。「新球場で観客動員を伸ばし、選手、ファンが一体となって日本一に」と思わず力を込め、「すぐにではなくても」と言葉を継いだ。

生まれは熊本市。父親の転勤で中・高時代を広島市で過ごした。「広島の思い出は戦争の思い出」。学徒動員され、兵器工場で運搬や穴掘りをした。日本画家の平山郁夫さんは同級の親友。「わが家の方へ向かう砲弾が見えて駆け付けいたら、先に平山が来てくれていた」。被爆は宮島の工場にいて免れた。

広島の日々は、「かけがえのない仲間との一体感があった日々でもある」と振り返る。「自分一人ではない、仲間がいるんだと勇気づけられるような県人会にしたい」。東京都大田区在住。

(中国08.02.08)

## 訃 報

望月 寛氏(修道中学校・修道高等学校元教諭)  
平成19年11月5日 逝去 享年81歳

氏は昭和40年4月1日に修道学園教諭として就任。23年にわたり、国語の教鞭をとられた。班活動においては、昭和42年より約20年間インターアクト班の顧問をされ、生徒の育成・指導にご尽力された。

心からご冥福をお祈りいたします。

坂井 幸子氏(修道中学校・修道高等学校元職員)  
平成20年3月2日 逝去 享年85歳

氏は昭和37年9月1日に修道学園職員として就任。約21年にわたり、主に進路指導事務を担当され生徒の育成・指導にご尽力された。

心からご冥福をお祈りいたします。

## 事務局だより

### 浅野家御当主浅野長孝様ご来校

平成19年(2007)年11月27日(火)9時、浅野家御当主浅野長孝様ご来校になり、林理事長、田原校長、土岸教頭、山内教頭と記念品室に於いて親しく懇談されました。

約1時間ほどのご来校ではありましたが、浅野家から頂戴した数多くの遺品や校内の諸施設をご覧いただきました。浅野家からは、修道が財政難であった時期、毎年わたる多額の寄付金をいただいたほか、今の修道の校地も昭和6年1月に無償譲渡いただいたものです。



## 平成20年度同窓大会開催一覧

### ◎広島修道大学大学院同窓大会

開催日時：2008年6月28日(土) 15:00～

会場：ホテルJALシティ広島

(広島市中区上鞆町7-14 TEL082-223-2580)

会費：6,000円

《お問い合わせ先》

広島修道大学大学院同窓会事務局

(石井健二郎氏)

TEL0824-22-2171

### ◎修道学園(中・高)同窓大会

開催日時：2008年9月6日(土) 18:00～

会場：リーガロイヤルホテル広島

(広島市中区基町6-78 TEL082-502-1121)

会費：6,000円

《お問い合わせ先》

修道学園(中・高)同窓会事務局

TEL082-241-6686

### ◎広島修道大学同窓大会

開催日時：2008年11月1日(土) 19:00～

会場：リーガロイヤルホテル広島

(広島市中区基町6-78 TEL082-502-1121)

会費：6,000円

《お問い合わせ先》

広島修道大学同窓会事務局

TEL082-830-1321

●2008年3月の修道学園(中・高)同窓会、修道学園同窓会連合会役員改選に際しましては、各回幹事の方々をはじめ関係の皆様方には年度末の大変お忙しい時期にもかかわらずご協力をいただき誠にありがとうございました。

●会報への積極的なご寄稿、支部総会・同期会などの報告、ご多忙にもかかわらず配慮いただきありがとうございました。今後ともよろしく願います。

## 全国制覇を成し遂げました

- ・書道の第29回全国公募千字文大会において5年の香川俊介君が文部科学大臣賞を受賞し、中学生・高校生の中で全国第1位となりました。
- ・第39回少林寺流錬心館全国空手道選手権大会高校男子重量級の部において4年の濱崎龍平君が、組手試合において、全国優勝しました。それにより広島県から「メイプル賞」を受賞しました。
- ・第61回全日本学生音楽コンクール全国大会シリーズバイオリン部門中学の部において、3年の小島療君が第1位となりました。